

普通期稲作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

1 気象と生育概況

宗像アメダスによると6月1日～7月18日の平均気温は平年より0.9℃高く、日照時間は平年比93%、降水量は平年比138%の湿潤状態で経過しました。

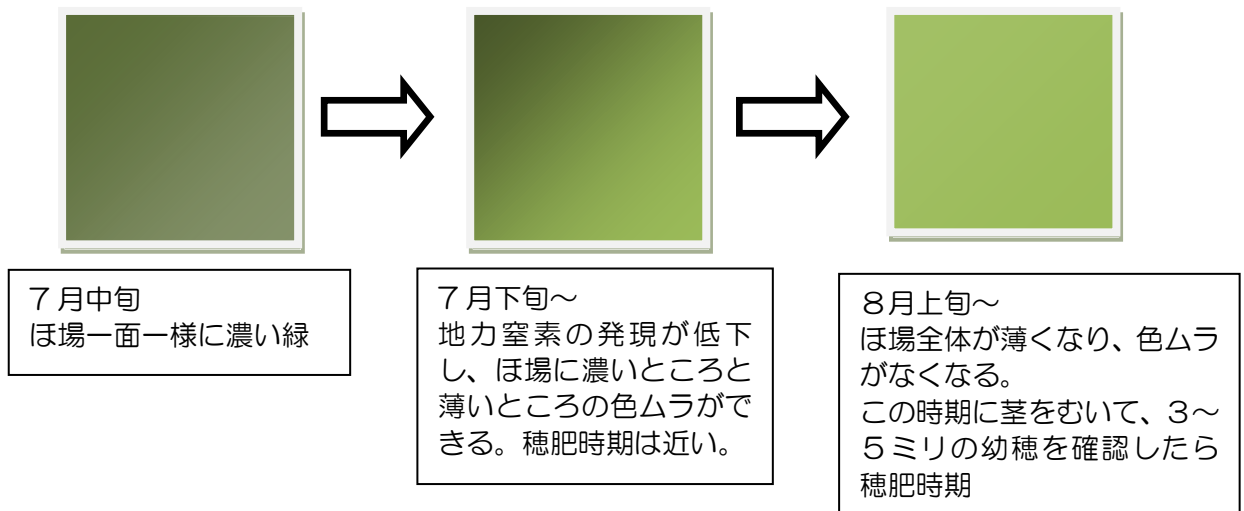
今後は以下の事に留意してほ場の管理を行いましょう。

2 水管理

6月中下旬植えの早生～中晩生品種は、間断かん水を実施し有効茎数(20本程度)が確保され次第、中干しを開始しましょう。ジャンボタニシ対策や水不足で田植後浅水～落水管理となったほ場は茎数が少ないため、中干しを弱めに行うか、中干しを行わずに茎数を確保しましょう。

3 穂肥

穂肥時期の決め方（6月20日移植のヒノヒカリの例）



品種別出穂期予想と穂肥時期（一般平坦地）

品 種	予想出穂期	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
夢つくし	8 / 8頃 (6 / 10植)	7 / 23頃	
元気つくし	8 / 20頃 (6 / 20植)	8 / 1頃	1回目から7日後
ヒノヒカリ	8 / 27頃 (6 / 20植)	8 / 7頃	
ツクシホマレ	8 / 31頃 (6 / 20植)	8 / 8頃	1回目から7～10日後

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。

4 病害虫防除

ウンカ類の発生は目立ちませんが、イネカメムシ、ミナミアオカメムシなどの斑点米カメムシ類の発生が近隣で多くなっており、注意が必要です。また、葉いもちが一部ほ場でみられます。ほ場の発生状況を確認し、必要に応じて防除を行いましょ

【要防除水準】 トビイロウンカ：幼虫の合計数

- ・飛来後第1世代(7月中旬～下旬)： 20頭/100株以上
- ・飛来後第2世代(8月中旬～下旬)： 100頭/100株以上

補正防除（ウンカ類、カメムシ類）

薬剤名	防除時期	散布量
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	2000倍
エクシード粉剤DL	収穫7日前まで	3kg/10a

補正防除（葉いもち）

薬剤名	防除時期	散布量
ビーム粉剤DL	発生初期 (収穫7日前まで)	3～4kg/10a
ノンプラスフロアブル	発生初期 (収穫7日前まで)	1000倍
コラトップ豆つぶ	葉いもち：初発10日前～初発時 穂いもち：出穂30日前～5日前まで	250g/10a

○ 斑点米カメムシ類の防除について（管内でも早期作付ほ場で発生を確認。）

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、**出穂2週間前までに草刈りを行いましょ**。（※出穂直前になってから除草すると、雑草で生育しているカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります）

※ イネカメムシは、まず早期水稻の出穂時期にほ場に侵入し、その後登熟の遅い品種に移動します。

出穂期に加害されると不稔になり、穂ぞろい期以降に加害されると斑点米が発生しますので、発生が多い場合は出穂期と穂ぞろい期の2回防除が望ましいです。



【イネカメムシ】